

P-②-4

強酸性水を用いた高齢者の白癬ケアの効率化

○日向野 那美¹⁾、増田 恵理子¹⁾、玉野 芳成¹⁾、小寺 由人³⁾、星野 裕²⁾

1) 医療法人星野会 介護老人保健施設 つむぎの郷、2) 医療法人星野会 星野病院、
3) 東京女子医大病院 消化器病センター 外科

強酸性水とは、水に塩化ナトリウムを加えイオン膜を介して電気分解して生成されるpH3以下の酸性水溶液である。強い殺菌作用を持ち、皮膚細胞を非常に早く再生させる特徴を有する。

【目的】

介護施設においての白癬ケアには多大な時間と人手を必要としている。ケアの治療効果を下げずに効率化を図るべく、強酸性水を用いた洗浄法を導入し、有用性を検討した。

【方法】

（従来法）足浴と清拭の後にフロリード軟膏を塗布／所要時間10分／週二日間行う。（酸化水法）強酸性水を流水式にして洗浄し清拭するのみ／所要時間2分／週三日間行う。

【対象】

介護施設の入所者から白癬保有者を抽出してケア対象者とした。

【結果】

効果判定は1)治療効果、2)ケア満足度、3)介護従事者の労働負担度のそれぞれをポイント制として数値化して評価した。治療効果は従来法と同等であり、ケア満足度は高くなり、従事者の負担は軽減された。問題点は、強酸性水の生成には時間を必要とする事、生成した後の保管や使用法に注意が必要な事、爪白癬に対しての効果は低かった事などが認められた。

【結語】

高齢者の白癬ケアに強酸性水を用いる事により、十分な効果と効率化が認められた。今後は更なる治療効果を追求すべく、強酸性水の利用法を改善して行きたい。